



Support Our Kids New Zealand Program in Okayama 2024 Report



December 2024
Support Our Kids Project



New Zealand Program in 岡山 2024 Overview

プログラム概要



事前研修

2024年10月15日（火）	第1回事前研修(オンライン)
2024年10月20日（日）	第2回事前研修(オンライン)
2024年11月1日（日）	第3回事前研修
2024年11月2・3日（土/日）	第4回事前研修(GTFグリーンチャレンジデー in 新宿御苑)
2024年11月12日（火）	第5回事前研修(オンライン)
2024年11月16日（土）	出発式

岡山研修

2024年11月16日（土）～11月20日（水）

滞在先

岡山県 倉敷市・岡山市

参加者

東日本大震災で被災経験のある宮城・福島県・茨城県出身の大学生5名

実施プログラム

第50回日本ニュージーランド経済人会議(JNZBC)参加
311震災プレゼンテーション
環太平洋大学交流・防災授業実施
倉敷美観地区訪問、岡山後楽園訪問

プログラム協力

駐日ニュージーランド大使館、日本ニュージーランド経済人会議、環太平洋大学、株式会社アークリンク、株式会社アイ・コーポレーション、株式会社アカデミー、有限会社アシスト、いそ路募金会、株式会社伊藤園、エフエム東京株式会社、オー・プロヴァンソー、カナルカフェ、株式会社サッポロ製麺、関彰商事株式会社、タリーズコーヒージャパン株式会社、テンワス株式会社、東京メトロポリタンテレビジョン株式会社、東和工業株式会社、株式会社虎ノ門実業会館、日本郵船株式会社、株式会社プレイン、ボイスデザイン株式会社、株式会社ボヌールマネジメントコンサルティング、株式会社マルチグループホールディングス、ヤマサ醤油株式会社
その他、個人も含め多くの方にご協力いただいております。

訪問都市について

今回のプログラムは、国内研修として、岡山県倉敷市と岡山市を訪問。

① 倉敷市

岡山県南部に位置し、ニュージーランド南島最大の都市であるクライストチャーチの姉妹都市。
昨年の日本ニュージーランド経済人会議に続いて、今年の日本ニュージーランド経済人会議は、この倉敷市で開催。

② 岡山市

岡山県の県庁所在地及び東瀬戸経済圏最多の人口を有する政令指定都市。
ニュージーランドにもキャンパスをもつ環太平洋大学の所在地。今回は環太平洋大学にも訪問し、大学生に防災に関する授業も実施。



New Zealand Program in 岡山 2024 Overview

現 地 ス ケ ヲ シ ュ ー ル

11月	プログラム内容		滞在先	プログラム詳細 SNS投稿
	午前	午後		
16 (土)	10:30 出発式 (SOK事務局)	岡山到着 イアンご夫妻交流会	岡山県 倉敷市	
17 (日)	日本ニュージーランド経済人 会議 運営準備	日本ニュージーランド 経済人会議 (JNZBC) ※ 歓迎レセプション参加	岡山県 倉敷市	
18 (月)	JNZBC会議 トークセッション 参加	JNZBC会議 トークセッション参加 JNZBC ディナー参加	岡山県 倉敷市	
19 (火)	JNZBC会議 トークセッション 参加	JNZBC 昼食会参加 産業視察 (倉敷美観地区訪問 倉敷中央病院訪問)	岡山県 岡山市	
20 (水)	岡山城・岡山後楽園訪問	環太平洋大学訪問 (震災プレゼンテーション・ 防災に関する授業実施) 解散式 (タリーズコーヒー ヤエチカ店)	—	

事前研修・出発式

2024年11月2日(土)・3日(日)に実施された環境省共催の環境イベントGTFグリーンチャレンジデーin 新宿御苑にて、事前研修の一環として、Support Our Kidsブースの企画・運営をしました。ブースでは、来園された方に自分にとって必要な防災グッズを考えていただいたり、新聞紙でスリッパ作りを体験いただいたり、防災ワークショップを実施しました。また、日本ニュージーランド経済人会議のテーマに関するアンケートも実施しました。能登地震の復興支援として、能登のチャリティ商品も販売し、多くのSupport Our Kids OBOGも運営をサポートいたしました。



GTFグリーンチャレンジデー



ブースの売上金155,210円(他イベントでの売上金含む)は、全額、**能登半島地震災害義援金**として石川県に寄付致しました。



2024年11月16日(土)、Support Our Kids 事務局にて、出発式を執り行いました。ニュージーランド大使館 エグゼクティブオフィサー 宮崎様、タリーズコーヒージャパン株式会社 顧問 丸橋様・小林様にもご出席頂き、出発前に激励頂きました。Support Our Kidsニュージーランドプログラムに参加したOGも、後輩達をサポートいたしました。参加者5名それぞれの目標とグループ目標も定めて出発いたしました。



出発式



倉敷到着後には、Support Our Kids名誉会長・日本ニュージーランド経済人会議 ニュージーランド側委員長のイアン氏・節子夫人と交流会を実施しました。

現地での様子① 日本ニュージーランド経済人会議

Support Our Kidsの名誉会長であるイアン・ケネディ氏がニュージーランド側委員長を務める「日本ニュージーランド経済委員会」と連携し、毎年11月に開催されている国際会議「日本ニュージーランド経済人会議」に参加。両国を代表するビジネスパーソンが一堂に集い、両国の発展や経済・文化をどのようにより良いものにしていくかなどについて討論を広げ、意思決定がなされる大変貴重な場所に、若者代表として特別参加させていただきました。また、運営事務局の一員として、誘導や受付等もサポートさせていただきました。



歓迎レセプション



ハイミッシュ・クーパー
駐日ニュージーランド大使と



在ニュージーランド日本国大使館
大澤誠大使と



講演・トークセッション

これからの日本ニュージーランド経済人会議に関する提言を行う機会を頂きました。

1. Beyond Generations!

これからも本会議に若者を参加させてほしい

2. Welcome to Tohoku!

東北を本会議の開催地として検討してほしい

そして被災地を訪れて欲しい

3. Invest Us!

是非私たち若者の未来に投資してほしい



現地での様子② 環太平洋大学訪問

2024年11月19日(火) 日本ニュージーランド経済人会議終了後、岡山市にある環太平洋大学の学生寮「志高館」に宿泊させて頂き、留学生達と交流会を実施致しました。

中国人留学生の皆さんに日本語を教えたり、留学生の故郷について教えて頂いたり、お互いの将来について語り合ったりと、予定時間を超えて楽しい交流の場となりました。日本語教師に興味のある学生にとっては、経験のある先生から直接経験談をお伺いしたり、授業の実践の機会として、貴重な機会となりました。



留学生交流会



SNSも交換し、短時間ながら今後も続く関係が構築できました。



2024年11月20日(水) 午後、環太平洋大学 第一キャンパスに訪問し、震災プレゼンテーションと防災に関する授業を実施させて頂きました。

防災に関する授業では、グループワークを行い、自分達の生活する地域で災害が起こった際に避難する場所を確認したり、取るべき行動や避難時に持っていくもの等を共有しました。



震災プレゼンテーション & 防災授業

阿部教授の講義で授業をさせて頂きました。



大橋学長にも、面会するお時間を頂き、激励いただきました！

倉敷市内研修

日本ニュージーランド経済人会議で街づくりのプレゼンをされた「大原美術館」にも訪問しました。



TULLY'S COFFEE倉敷美観地区店で、限定商品も頂きました！

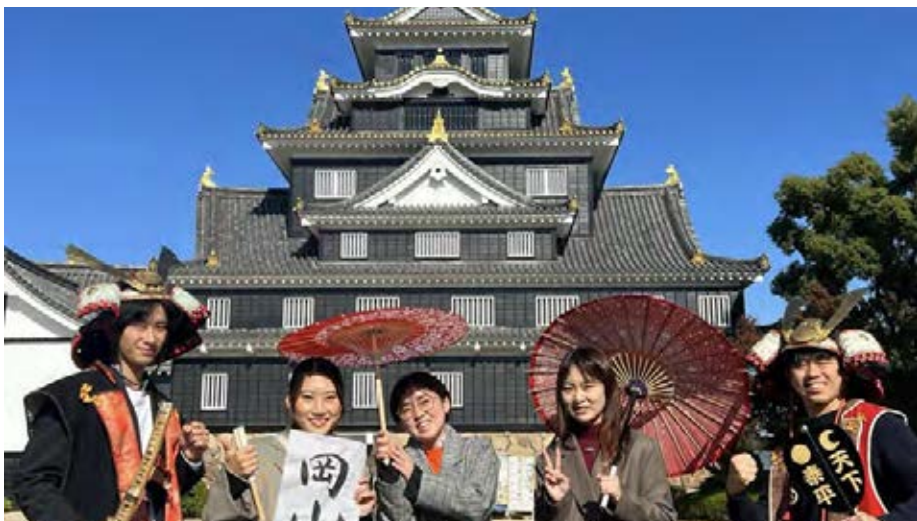


岡山市研修

岡山駅前桃太郎像から出発し、日本三名園の後楽園と岡山城を訪問しました。

岡山城では、体験型の展示も多く、楽しく歴史や文化を学ぶことができました。

路面電車にも乗車し、岡山市内を散策しました。



解散式

TULLY'S COFFEE様のご協力により、東京駅ヤエチカ店にて解散式を執り行いました。Support Our Kids名譽会長イアン氏・節子夫人、駐日ニュージーランド大使館 エグゼクティブオフィサー 宮崎様、タリーズコーヒージャパン株式会社 顧問 丸橋様・小林様・阿部様にもご出席頂きました。また、SOK OBOGも後輩達のサポートに駆けつけてくれました。

日時 2024年11月20日（水）20時半～
場所 Tully's coffee東京駅ヤエチカ店
内容 参加者感想、ご来賓挨拶



参加者 事後レポート：福島 優希（大学3年生）

この岡山プログラムでは「東日本大震災時における茨城での被災経験をどう生かすのか」という私自身の問いに真正面から向き合うことができました。茨城は北関東に位置する県で、東日本大震災時の茨城県は地震や津波を経験したものの、復興のスピードが早く、他地域から支援される地域から東北地方を支援する地域へと移行しました。それによって、茨城の震災記録というのは東北地方における震災記録と比べて、大変少なくなっていました。

一方で、そのような中でも、私の心は私にこう語りかけ続けました。
「東日本大震災は東北地方だけでなく、関東地方を含めた広い地域における災害だった。」
「どうかして、自分の被災経験を活かしたい。」

それが今、5年の時を経てSupport Our Kids(以下、SOKとします)と私を強く結びつけました。

日本ニュージーランド経済人会議に出席される日本代表側とニュージーランド代表側の両方の方々は大変堂々とされており、覇気を感じることができました。そのような方々を間近で見ていた私は、いつしか自分もそうでありたいと思うようになっていきました。本会議最終日の前日に、東北地方出身のSupport Our Kidsのメンバーとともに全力で考えた、これからの日本ニュージーランド経済人会議の在り方についての提案には自分の被災経験も盛り込まれており、翌日の会議ではSOKメンバーによる積極的な会議の貢献が認められ、50周年記念「次世代リーダーの参画に関するMOUの締結」がなされました。その経験を通じて、自分の被災経験も活用の仕方によっては国を動かす経済人にも影響を与えるものであることを認識できたと同時に、自分の被災経験から得られた知恵の活かし方を本プログラムから学ばさせていただきました。

IPU学生寮で行われた日本語を学習している中国の留学生と日本語を使った交流では、久しぶりに「伝えやすく、分かりやすい日本語とは」について考えさせられました。特に彼ら彼女らが頑張って日本語を習得している姿は印象に残りました。経済人会議でも実際にニュージーランドの方々と交流する機会があり、「日本語であれば意見や感想が発信できるのだけれども...」というもどかしさを感じましたので、いつしか自分の意見や感想がいえることを目標にしながら、英語に触れていこうと強く感じました。

GTFグリーンチャレンジデーの準備期間と本番、この岡山プログラムに向けた準備期間と本番の5日間で得られた大変貴重な経験は私の人生において、少なからず影響を与えるものとなりそうです。岡山に出発する直前に行われた開会式にて、私は「この経験を自分の周囲の人にも広めていく」ことを目標に掲げていました。この目標を達成するか否かは、これからの私の行動次第ですが、まずは、普段、自分が関わらせていただいている、大学のゼミや防災啓発の側面を含む自然体験活動プログラムに積極的に関わり、沢山の方々とのご縁の中で経験を積んでいき、最終的には自分自身の被災経験を踏まえながら、日本国内外に通じる防災教育の新たな可能性と知見を発見して、発信いくことを目標に行動していく所存ですし、防災教育だけでなく、日常においてもこの経験を身近な人を通じて広げていこうと思います。

最後に、メンバーのみんな、SOK事務局の方々、日本ニュージーランド経済人会議の関係者の皆様、IPU関係者の皆様、スポンサー企業や公的機関の皆様、GTFグリーンチャレンジデーや開会式・閉会式に駆け付けてくださったSOKのOBOGの方々、昨年一緒に熊本県水俣市に行ったSOKのOG、私が参加することに対して肯定的に捉えてくれた大学のみんな、家族、全ての人々に感謝申し上げます。



倉敷ケーブルテレビ

日本ニュージーランド経済人会議中に取材を受け、2024年11月18日のKCTNEWSで取り上げられました。



KCTニュース動画



日本とニュージーランドの経済人が次の世代を担う若者と一緒に経済について意見交換する会議が倉敷市で初めて行われました。

倉敷アイビスクエアで開かれた「第50回日本ニュージーランド経済人会議」には、日本側から100人、ニュージーランド側から80人のあわせて約180人が参加しました。この会議は日本とニュージーランドの貿易や経済などの課題解決に向けたテーマを決め、今後50年の見通しについて意見交換することを目的に1974年から行われています。去年の開催地だったニュージーランドのクライストチャーチ市と倉敷市が姉妹都市であることから、節目の50回目が日本の倉敷開催となりました。

今年のテーマは、「未来を拓く、次世代へのパートナーシップ」です。開会式では、日本側の代表である市川晃さんとニュージーランド側の代表であるイアン・ケネディさんが、過去50年間の改善点を次世代を担う人材の育成につなげたいと述べました。会議では、地域経済の活性化やエネルギーの活用方法など4つの議題について話し合いました。また、両国の若者も参加し、日本側からは、世界各国で災害復興支援などを中心に行っている「Support Our Kids」の学生メンバー5人が参加しました。あすも会議が開かれるほか、50周年を記念した特別セッションも行う予定です。



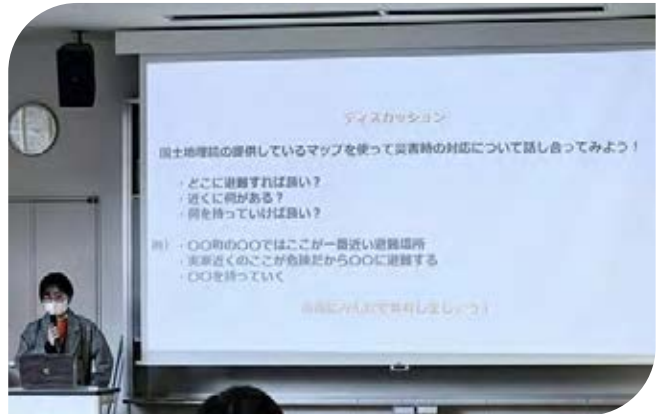
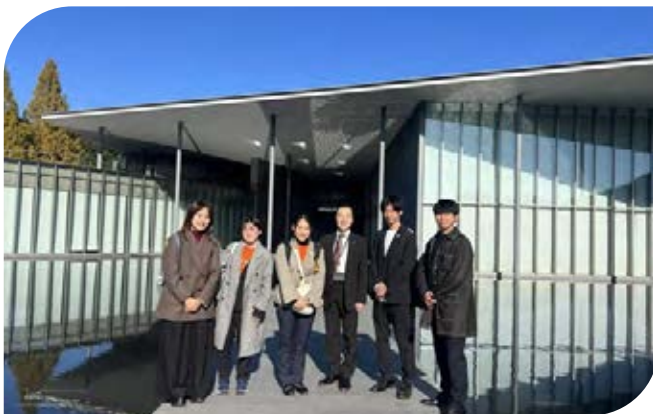
山陽新聞

日本ニュージーランド経済人会議の開催について、2024年11月17日発行の山陽新聞に掲載されました。





Support Our Kids



Support Our Kids

Support   Our Kids 

